

# 看護あきた

Nursing Akita

Vol. 100

平成22年度 1号

## 100号記念特別企画 「看護あきた」の歴史をひもとく

- ◎会長あいさつ
- ◎平成22年度 秋田県看護協会  
通常総会・特別講演レポート
- ◎平成22年度 新理事・監事紹介
- ◎平成22年度 理事・監事・地区支部長  
常任・特別委員一覧
- ◎「看護の日」事業報告
- ◎出版委員長経験者より当時の経験談
- ◎100号に向けてのアンケート
- ◎会員から協会へ何でもメッセージ
- ◎事務局からのお知らせ



### 秋田県看護協会 会報

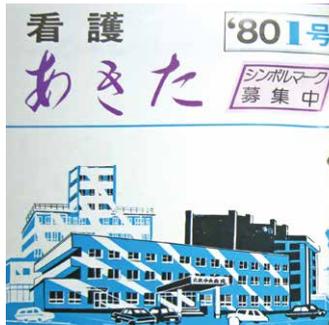
平成22年度会員数  
(7月5日現在)

	6,663名
保健師	269名
助産師	318名
看護師	5,717名
准看護師	359名



# 目次

## Contents



9

看護あきた 100号記念企画

## 「看護あきた」の 歴史をひもとく

- 1 会長あいさつ (社)秋田県看護協会 会長 烏 トキエ
- 2 平成22年度 秋田県看護協会通常総会報告
- 3 特別講演「私が歩んできた看護の道」村松静子氏



- 4 「看護の日」 事業報告
- 6 平成22年度 新理事・監事紹介
- 8 平成22年度  
理事・監事・地区支部長  
常任・特別委員一覧



- 14 出版委員長経験者より当時の経験談
- 15 100号に向けてのアンケート



- 16 会員から協会へなんでもメッセージ
- 17 事務局からのお知らせ

# 会長あいさつ

秋田県看護協会会長 鳥 トキエ



新緑の美しい季節となり、各職場では、新人を迎え、忙しい中にも活気に満ちた新年度をお過ごしのことと存じます。

「看護あきた」は、本号で記念すべき100号となります。「看護あきた」の昭和55年から29年間にわたる記録や写真は、秋田県看護協会の歴史そのものであり、情報誌としてその時代の看護職の看護に対する情熱や課題を綴った貴重な資料となっております。今回は、100号を記念して、これまでの記事のトピックスや広報委員の取り組みなどを収録・掲載いたしました。「看護あきた」がこれからも、会員に資する最新情報や地域活動情報を発信できるよう、関係者一同努力してまいります。

昨年は、「保助看法」「看護師等の人材確保の促進に関する法律」の一部改正という看護職にとっては画期的な出来事がありました。22年4月には、新人看護職員研修制度が開始され、秋田県では、18施設が応募し新卒の80%が対象となる予定です。人材確保法については、昨年10月に「第7次看護職需給計画策定のための実態調査」が行われ、22年12月までに国や県の需給見通しが策定され、23年実施予定です。少子高齢化が進展する中で、医療の担い手である看護職を確保し、安全で質の高い看護をめざした方策決定は、安全・安心な医療・看護の推進に繋がるものと期待しております。

さらに、この4月の診療報酬改定では、チーム医療の中で、専門性のある看護職配置が評価されました。また、今、「特定看護師」について、厚生労働省にて検討が始まっております。このように看護職に対する期待が高まっている中で、看護職には、揺るぎのない看護の原点を保持しつつ専門性を高め、看護の開発・発展に努め、社会の要請に答えていく努力が必要と思います。23年度は、秋田に2つ目の看護大学院が設置される予定であり、大学院での学びが看護の専門性を高める好機となることを期待しております。

さて、6月8日から3日間、横浜アリーナにおいて日本看護協会総会が開催され、開会式にて秋田県の齋藤京子様と三浦ノリ子様から日本看護協会会長表彰を受賞されました。お二人には心よりお祝いを申し上げます。議案については、代議員の数と理事の権限について意見が集中しましたが、結果的には全て承認され、23年度法人化移行を推進することとなりました。

秋田県看護協会では、5月26日に22年度通常総会を開催いたしました。お陰さまで21年度の事業は無事終了し、決算と共に承認されました。また、21年度会員数は6770人(入会率51.1%)となり、20年度より94名増加しました。これも、会員のみなさまのご支援、ご協力によるものと心より感謝申し上げます。

22年度については、新公益法人化に向けた当協会の「理念」と「組織の骨子」をはじめ、事業計画と予算が原案通り決定しました。重点事業としては、①組織の強化及び組織の見直し、②質の高い看護の提供・継続教育の推進、③働き続けられる職場環境の整備・推進、④医療・看護の安全対策の推進、⑤地域連携の推進・訪問看護の充実、⑥災害看護支援体制の充実、⑦県民の健康づくり・次世代育成支援をあげております。これらを実施するため、医療・看護安全委員会と訪問看護推進委員会を新設し、さらに日本看護協会看護師職能委員会への協力として福祉施設で働く看護職の実態調査を行う予定です。

また、22年度は、法人化準備の最終年となるため、定款及び細則(案)の作成、地区支部との一体化、委員会のあり方等を検討し、24年度の新公益法人総会開催に向けて皆様のご協力を得ながら進めてまいります。

最後になりましたが、広報出版委員の皆様には、これまでのご尽力に改めまして心より感謝申し上げますと共に、「看護あきた」が、今後も協会と会員を結ぶ架け橋となることを祈念いたします。

# 通常 総会



平成22年度スローガン 安心・安全な医療を目指して、  
看護職が働き続けられる環境をつくろう！

平成22年度秋田県看護協会通常総会が5月26日(水)秋田県総合保健センター大会議室で開催された。県内各地より342名の参加者と4,695名の委任状を含め、計5,037名をもって総会の成立が宣言された。

はじめに、烏トキエ協会長より「昨年度は看護界においては60数年ぶりに保健師助産師看護師法一部改正が国会を通過し、新人看護職員の卒後臨床研修制度が実施されるという快挙につながった年であった。平成22年度は、診療報酬が0.19%のプラス改定となり、これが看護業務の評価や看護師の疲弊緩和につながることを期待するものである。秋田県看護協会では、看護職が働き続けられる環境づくりに重点的に取り組むこと、医療・看護安全委員会と訪問看護推進委員会を新設し焦点を絞った事業を展開することにしている。また、新規事業として、看護研究支援事業や訪問看護管理者研修を開催する。秋田県では新たに認定看護師研修に関する助成金制度が開始されることになった。また、平成23年度に予定している公益社団法人認定への移行準備年となり、理事会・会員とも力を合わせて公益社団法人化を推進していかなければならない」と挨拶があった。

来賓の秋田県健康福祉部次長、秋田市保健所所長から御祝辞をいただいた。

今年度の会員表彰受賞者は89名で、脳血管研究センターの佐藤のみ子様为代表の謝辞を述べられた。また、名誉会員には、佐藤照子様、明澤京子様が推薦され名誉会員証が授与された。

議長団選出後、平成21年度事業報告、活動報告などが承認された。さらに公益社団法人に向けた理念と骨子、平成22年度スローガン並びに平成22年度事業計画・予算が承認された。その後、新旧役員が紹介され、新役員へとバトンタッチされた。最後に出席者全員で「日本看護協会綱領」の宣言と協会歌「光 求めて」を斉唱し終了した。

午後からは、これまで「看護の日記念行事」の中で行ってきた「ふれあい基金」の贈呈と「贈呈先施設訪問報告」を初めて総会の場で行い、会員の寄附を原資として設立した「ふれあい基金」の主旨を多くの会員に伝えることができた。今年度は福祉作業所等5施設に希望備品を目録として贈呈し大いに感謝された。引き続き、村松先生の特別講演に入り、盛会の裡に全日程が終了した。

また、朝、総会開会までの時間を利用して、創立60周年を記念して作成したDVDを映写し、看護協会のあゆみと活動をアピールした。

(記事: 広報出版委員 佐藤)





【講師】

在宅看護研究センターLLP  
看護のコンサルタント株式会社

代表 村松 静子氏

## 「私が歩んできた看護の道」

～42年を振り返って～

【講演内容】

新卒ナースの時代から現在に至るまでの42年間、人生の節目における体験から看護について感じ、考えさせられたことを振り返り熱く語られた。

新卒時代は情けないことばかり、でも努力した。職業人としての厳しさと責任を感じた。患者から教わった“あんなナースにならないでね”と。

私は看護師として大きな一歩を踏み出した。働く事の大切さを感じる一方で、看護の素晴らしさに引きこまれていった。また、白血病で亡くなっていく青年を看護している私が恋をし、生きること、死ぬことを考えさせられた。

脳研時代は、同じ志を持つ仲間がいて、“同志”という意味を知った。そこから看護する事の楽しさ、看護を高めることの価値を見出した。また、出来ないことの悔しさを感じ、言い返せるための努力は惜しまなかった。向き合う看護の必要性、その時代にしか出来ない遊び、心の余裕を持つことの必要性を感じた。

外来勤務時代には、外来を相談窓口として充実させるためにはどうすればよいのか、自己決定をサポートするためには、どうすればよいのかなど、看護機能の拡大について考えた時期である。

こうして多くの困難を乗り越えてこそ、素手での看護の素晴らしさや大切さを体感し、実践と理論の融合につながる看護を体験することにつながった。

そして、自分の心を磨く必要性を感じて、再び大学、大学院で学んだ。

ボランティア訪問看護を3年半経験し在宅看護を起業した。看護サービスを提供する過程で、看護の最先端を行く開業ナースに出会った。

現在取り組んでいることは、医療の受け手と医療を提供する側との間に起こりがちな「認識のずれ」を第3

者の立場で、ナースとして活動推進することである。

対話を重視して、そのずれを正す架け橋となるナースを、メッセンジャーナースと命名し、メッセンジャーナースとして認定することを進めていきたい。

村松先生は、新卒時代から42年間の看護の歩みを振り返られ、その時に感じたこと、考えたことなどを赤裸々に話してくださいました。「多くの仲間たちとの出会いの中で、探し続けた看護の心は世界共通である。」また、「看護の道を選んで改めて思ったことは、看護とは五感を使って心と心で向き合うことである」と語られ、看護への尽きない情熱が伝わってくる感動的な講演でした。

(記事: 広報出版委員 佐藤)





# 秋田県民と集う 「看護の日」 フェア 実施報告



今年もポポロードに設置した看板とのぼり旗です。

## テーマ

～誰もが持っている「看護の心」  
どうぞその気持ちを  
いつまでも、どこまでも～

平成22年5月8日(土) 10:00～14:30  
会場●アルヴェ 1F きらめき広場



かわいいちびっこナース軍団ですよ！  
お母さんも将来が楽しみですね♥

## 実施内容

**まちの保健室** (なんでも健康相談コーナー) 10:00～13:30

- 血圧測定 ●骨密度測定 ●体脂肪測定 ●メタボリックシンドローム相談
- 乳がん自己検診 ●薬の相談 ●栄養相談 ●口腔衛生相談 ●お酒との上手な付き合い方相談

**ちびっこナース写真撮影コーナー 「めんこい看護師になってみませんか」**

10:00～13:30

**マッキーさんのアート風船プレゼントコーナー**

10:00～13:30

**家庭看護実演コーナー**

10:00～11:00

**AED実演コーナー**

1回目/11:00～11:30、 2回目/12:50～13:20

**寸劇 河辺わさび座**

テーマ「家族の絆 一老いを迎えて」13:30～14:00

**保健師によるリフレッシュ体操**

14:00～14:30



「手で確かめる」を覚えて下さいね！



一年に一度待ち望んでいる人が多いコーナーです。



口腔衛生の相談と指導をしていただきました。普段の歯磨きを見直してみる良いきっかけになります！ 歯科衛生士会さんよりご協力いただいた今年度の新コーナーです。



毎年、沢山の人が健康に気づかって来てくれます。



今年から新たに設けた「家庭看護実演コーナー」です。意外な物がとっても機能的に使えるってビックリ！骨盤ゆがみにもいいですよ。



アルコールパッチテストでお酒との相性をみてもらいましょう。自己の身体を再確認できますよ！ 日精看さんよりご協力いただいた今年度の新設コーナーです。



毎年、ご協力いただいている秋田県薬剤師会のコーナーです。年々、相談者が増え続けているコーナーです。薬の飲み方、効き方、知ってみると、「な・る・ほ・ど！」ですよ。



毎年、ご協力いただいている秋田県栄養士会のコーナーです。「食」は全ての基本です。あなたの食生活、見直しませんか？



好きな色はどれかな？ 迷わずこれ！！ 並んで待っていたんだよ♥ 大道芸人のマッキーさん、今年も素敵な風船をありがとう！



AED実演コーナー 普段、触る事のないものですから緊張しますね。「知っておくこと」は大事なことです！



河辺わびや座の寸劇 老いは誰にでも必ずくるからこそ、家族の絆が大事なのですね。考えさせられました。



保健師さんによるリフレッシュ体操 身体を動かし、気分を爽快にして明日へ向かって頑張りましょう！

# 平成22年度 新 [ 理 事 ]



会長

秋田県看護協会  
烏 トキエ

このたび、会長として二期目を拝命いたしました。任期中の一番の目標は、新公益社団法人への移行を成功させることです。定款細則作成、委員会・地区の検討をはじめ、各種団体との交流・連携を深め、地域に開かれた事業展開ができるよう精一杯努力いたします。

いま、看護を取り巻く環境は激変しておりますが、本会では、看護職が専門的な知識・技術を提供し、チーム医療の中で看護の力を発揮できることと、看護職が働き続けられる環境整備に取り組み、活力ある県看護協会を目指してまいります。今後ともよろしくお願いたします。



第一副会長

秋田市  
佐藤 ヨシ

第一副会長として二期目の任を引き受けることになりました。一期目は60周年記念誌編纂を担当し、貴重な学びをさせていただきました。皆様のご協力に感謝しております。

今年度は、新たな事業としてスタートした「看護研究支援事業」の担当理事になりましたので、この事業が任期内に軌道に乗るように努めたいと考えています。この事業への会員の皆様の積極的な参加を期待いたしております。私の好きな言葉「具体的に動けば具体的な答えがでる」を抛り所に副会長の役割を果たしていきたいと考えております。会員の皆様のご支援よろしくお願いたします。



常務理事

秋田県看護協会  
佐藤 潤子

このたびの総会で三たび選任して頂き、精一杯努める決意を新たにしているところです。秋田県看護協会は、公益社団法人を目指し、今年と来年が山場になります。今総会で承認された基本理念と組織の骨子にこれから肉付けをし、23年度の総会に定款・細則の改正案を上げることになります。日本看護協会の久常会長から常々伝えられるように、協会は研修のためだけではなく、制度を考え提案し、会員の労働条件を改善するための団体であることをここで再確認したいと思います。公益社団法人を維持していくには、地域社会への貢献や創造的な活動がますます求められます。会員のための団体としての役割をしっかりと発揮できるよう、皆様の力をお借りして取り組んでまいりたいと思います。



会計理事

市立秋田総合病院  
吹谷 由美子

このたび会計理事を務めさせていただきます。今年度は平成23年度に予定している公益社団法人認定申請への移行準備の年であり、また会計についても新会計基準がスタートする事となっています。社会情勢も、看護協会も変革の時であり、任の重さを痛感しております。未熟ではありますが、ご指導を受けながら精一杯努めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。



看護師職能理事

潟上市  
三浦 ノリ子

この度、看護師職能理事として3期目を努めさせていただく事になりました。

看護職職場環境の現状把握アンケートの結果から、職位や看護体制に関わらず労働条件や職場環境の改善、業務内容の整理に取り組む必要があると思っているが、現状は日々の業務に追われて、会員皆が疲弊している事が明らかになりました。

社会経済福祉委員会やナースセンターとの連携を持って、①働き続けられる職場づくりを支援する、②離職防止の推進をかね、共通課題として検討していきたいと思っております。

会員の皆様ご指導、ご協力をお願いいたします。



由利本荘にかほ地区理事

由利本荘医師会病院  
池田 淑子

今年度、由利本荘にかほ地区支部から理事として務めさせていただくことになりました。

看護協会の活動をやっていけるのだろうかかと不安でいっぱいです。

これを機会に、自分なりに少しずつでも協会の知識を深めていけたらと思っております。

微力ではありますが、県と地区のパイプ役として自分の役割を果たしていきたいと思っておりますので会長さんをはじめ先輩の方々のご指導宜しくお願いたします。

# 監事] 紹介



## 大仙地区理事

仙北組合総合病院  
武藤 孝子

この度大仙・仙北地区の副支部長及び地区理事を務めさせて頂くことになりました。以前教育委員会の委員として学びの大きかった4年間をすごさせて頂きました事を思い出しております。

今回は理事の任に着き役割と責務の大きさに不安を募らせております。協会の理念に基づき行動でき、様々な活動を通し地区と協会のパイプ役になれるようがんばりたいと思っておりますのでご指導、ご協力をよろしくお願い致します。



## 横手地区理事

市立横手病院  
藤井 洋子

今年度、横手平鹿地区理事を務めさせて頂くこととなりました。過去において地区支部活動は6年間勤めましたが、県協会の理事は初めての経験です。時々協会ニュースや県の協会だよりに目を通す程度の自分であっただけに、今後理事会で話し合われる議題に、ついていけるのだろうかと今から非常に不安です。

任期2年ではありますが、会長はじめ諸先輩からのご指導を受けながら勉強し、微力ながらも秋田県看護協会活動に貢献できるよう、努力していきたいと思っております。



## 湯沢雄勝地区理事

雄勝中央病院  
山内 純子

この度、湯沢雄勝地区理事・副支部長としての任務を担当させて頂くことになりました。

これまでは一会員として地区の協会活動に関わってきましたが、具体的な知識・経験もなく、理事という役割と責務に大きな不安を抱えております。今年度は公益法人となるために、様々な検討事項があるとのことですが、諸先輩方や役員の方々のご指導のもと、前向きに学ぶ姿勢を持って、地区支部との連携を密にして責務を果たしたいと思っております。どうぞ、ご指導・ご協力をよろしくお願いいたします。



## 全区理事

花園病院  
佐々木 吉明

このたび、全区理事の大任を再び担うことになりました。

現在、看護の業務が専門化される一方、多様な職場にも看護師が必要とされています。医療や社会の情勢が刻々と変化の中で協会員として何をすべきかを皆さんと学んでいきたいと思っております。

皆様方のご指導、ご協力よろしくお願い致します。



## 監事

秋田組合総合病院  
佐藤 順子

監事としての役割を頂き、その責務の重さを体感した一期アツという間の2年でした。再び監事の任を担うにあたって協会活動が適正に運営される事に視点を置き、新たな気持ちで監事業務を遂行したいと思っております。

日本看護協会の定款が変わり、いよいよ公益社団法人として本格的に取り組みがスタートしました。監事の責務も今まで以上に重くなりましたが、皆様のご指導とご協力を頂きながら精一杯、努力してまいりますのでよろしくお願い致します。



## 監事

秋田県福祉相談センター  
井上 栄

このたび県看護協会監事の任を担うことになりました。

“井の中の蛙大海を知らず”で、果たして重責を全うできるか不安で一杯ですが、平成22年度は公益社団法人認定申請への移行準備年であり、ますます社会に期待される看護職能団体組織として、年々活動範囲も幅広く事業内容も多岐にわたっています。

協会事業が適正に行われますよう皆様からご指導、ご協力をいただきながら微力ではありますが、監事としての責務を果たすよう努力していきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

# 役員名簿

●印:委員長

## 理事・監事

役職名	氏名	職種	所属施設名
会長	烏 トキエ	看	秋田県看護協会
第一副会長	佐藤 ヨシ	助	秋田市
第二副会長	三浦 令子	保	由利本荘市
常務理事	佐藤 潤子	保	秋田県看護協会
書記	佐藤 光子	看	秋田市
会計	吹谷由美子	看	市立秋田総合病院
教育	宇佐美正子	看	秋田県看護協会
保健師職能	岸 マサ	保	秋田市
助産師職能	荒川きよみ	助	秋田組合総合病院
看護師職能	三浦ノリ子	看	潟上市
鹿角	川又留以子	保	かつの厚生病院
大館	佐藤 孝	看	秋田看護福祉大学
北秋田	松橋祐美子	看	グループホーム「ノ」-北欧の里
能代・山本	佐々木冷子	看	秋田社会保険病院
秋田臨海	伊藤真紀子	看	秋田県立脳血管研究センター
由利本荘にかほ	池田 淑子	看	由利本荘医師会病院
大仙・仙北	武藤 孝子	看	仙北組合総合病院
横手	藤井 洋子	保	市立横手病院
湯沢・雄勝	山内 純子	看	雄勝中央病院
全区	佐々木吉明	准	花園病院
監事	加藤百合子	助	花巻市
監事	佐藤 順子	看	秋田組合総合病院
監事	井上 栄	看	秋田県福祉相談センター

## 地区支部長

地区支部名	氏名	施設名
鹿角	戸館 柱子	かつの厚生病院
大館	菅原 留美子	大館市立総合病院
北秋田	北嶋 洋子	北秋田市民病院
能代・山本	近藤 美喜	秋田しらかみ看護学院
秋田臨海	新野 隆子	秋田赤十字病院
由利本荘にかほ	佐藤 ミツ子	由利組合総合病院
大仙・仙北	安藤 恵美子	市立角館総合病院
横手	佐藤 セツ子	市立横手病院
湯沢・雄勝	小野 順子	町立羽後病院

## 常任・特別委員

●印:委員長

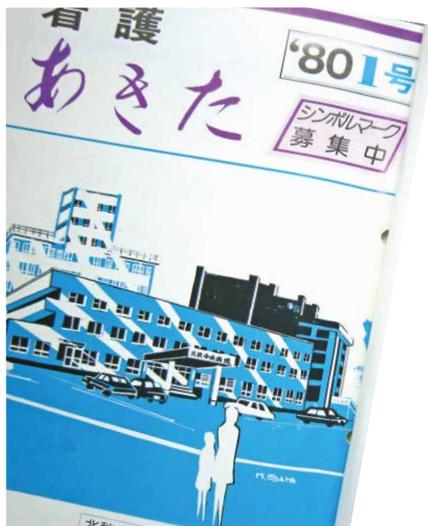
委員会名	委員名	職種	所属施設名
保健師職能委員会	●岸 マサ	保	秋田市
	高橋 久美子	保	秋田市保健所
	加賀美 忍	保	秋田組合総合病院
	鈴木 啓	保	にかほ市金浦保健センター
	小松 京子	保	大仙市
	上野 静子	保	小坂町地域包括支援センター
助産師職能委員会	●荒川 きよみ	助	秋田組合総合病院
	小出 雪子	助	市立秋田総合病院
	遠藤 知子	助	中通総合病院
	鎌田 静	助	大館市立総合病院
	工藤 佐智子	助	山本組合総合病院
	佐藤 明美	助	由利組合総合病院
看護師職能委員会	●三浦 ノリ子	看	潟上市
	柿崎 美幸	看	市立横手病院
	佐藤 聖子	看	秋田組合総合病院
	石田 智里	看	土崎病院
	佐藤 多恵子	准	本荘第一病院
	佐藤 園子	看	北秋田市民病院
	鈴木 美佳子	看	仙北組合総合病院
	湯川 早苗	看	秋田県立脳血管研究センター
社会経済福祉委員会	●松橋 廣巳	看	公立米内沢総合病院
	小野 寿美子	看	秋田大学医学部附属病院
	佐藤 信子	看	中通総合病院
	野村 優子	看	山本組合総合病院
	石川 みゆき	看	本荘第一病院
広報出版委員会	●佐々木 順子	看	山本組合総合病院
	西村 真智子	看	外旭川病院
	軽部 奈弥子	看	秋田県立脳血管研究センター
	五十嵐 紅子	保	市立秋田総合病院
	中屋 郁	看	中通リハビリテーション病院
	中川 久美子	看	秋田組合総合病院

委員会名	委員名	職種	所属施設名	
秋田県看護学会委員会	●佐々木 由香	看	秋田市医師会立秋田看護学校	
	嶋田 純子	看	山本組合総合病院	
	沢田石 良子	看	外旭川病院	
	柴田 仁美	保	雄勝地域振興局福祉環境部	
	工藤 由紀子	看	秋田大学大学院医学系研究科保健学科専攻	
	齊藤 清子	助	秋田県立衛生看護学院	
	船木 康子	看	秋田大学医学部附属病院	
	佐藤 幸代	看	秋田赤十字病院	
	●下田 恵美子	看	秋田市	
	佐々木久美子	看	北秋田市民病院	
看護制度委員会	佐々木みよ子	看	杉山病院	
	佐藤 千夜子	看	平鹿総合病院	
	佐藤 さとみ	看	市立横手病院	
	●大高 恵美	看	日本赤十字秋田看護大学	
教育委員会	佐藤 弘子	助	「ひろっこ」母乳と育児の相談室	
	大村 泰子	看	市立秋田総合病院	
	千葉 孝子	看	秋田労災病院	
	宇佐美真裕美	看	秋田県成人病医療センター	
	柿崎 かおる	看	中通総合病院	
	近藤 多美子	看	秋田県立脳血管研究センター	
	高橋 悦子	看	仙北組合総合病院	
	塩谷 由美子	看	大館市立総合病院	
	加藤 美由紀	看	秋田社会保険病院	
	田口 貴久子	保	男鹿市保健センター	
	加賀谷 晶子	看	秋田大学医学部附属病院	
	小野 まゆみ	看	由利組合総合病院	
	戸嶋 京子	看	平鹿総合病院	
	伊藤 千春	看	秋田赤十字病院	
	「看護の日」委員会	●佐藤 タツ子	助	雄勝中央病院
尾山 久美子		看	大館市立扇田病院	
鶴田 こずえ		看	市立角館総合病院	
茂木 美和子		看	秋田県立脳血管研究センター	
進藤 智加子		看	秋田組合総合病院	
●田口 牧子		看	秋田社会保険病院	
認定看護管理者教育運営委員会	齋藤 京子	看	小泉病院	
	佐藤 田鶴子	看	由利組合総合病院	
	佐々木理恵子	看	日本赤十字秋田看護大学	
	白川 秀子	看	秋田大学医学部附属病院	
	宇佐美 正子	看	秋田県看護協会	
	工藤 一子	助	秋田県看護協会	
	[特別委員会]災害看護委員会	●木嶋 しげ子	看	由利組合総合病院
		木村 志保子	看	鹿角組合総合病院
		越後谷 和美	看	秋田組合総合病院
		小坂 さおり	看	男鹿みなと市民病院
熊谷 浩子		看	県立リハビリテーション・精神医療センター	
●三浦 真由美		看	市立秋田総合病院	
[特別委員会]医療・看護安全委員会	森 陸子	看	能代山本医師会病院	
	石井 直子	看	秋田赤十字病院	
	石川 桂美	看	秋田緑ヶ丘病院	
	田口 さつき	看	外旭川病院	
	高橋 美紀子	看	仙北組合総合病院	
	●石川 セツ子	看	訪問看護ステーションあきた	
[特別委員会]訪問看護推進委員会	柴田 貴子	看	大館市立扇田病院	
	鎌田 さと子	看	秋田赤十字病院	
	鎌田 百合子	看	中通訪問看護ステーション	
	真崎 祥子	看	市立角館総合病院	
	金 美穂子	看	ナースステーションふきのとう	
	●三浦 令子	保	由利本荘市	
[特別委員会]法人改革準備特別委員会	石黒 博子	看	老人保健施設遊心苑	
	菅原 留美子	看	大館市立総合病院	
	佐藤 やよい	看	秋田組合総合病院	
	大山 京子	看	大曲中通病院	
	杉山 満芳	看	秋田市	
推薦委員会	●難波 はつ子	看	秋田緑ヶ丘病院	
	秋元 厚子	看	北秋田市	
	菅原 紀代美	看	杉山病院	
	工藤 順子	看	秋田県立リハビリテーション・精神医療センター	
	高野 ひとみ	看	かつの厚生病院	
	遠藤 まゆみ	看	市立大森病院	

## 看護あきた 100号記念企画

看護あきた [昭和55年度 1号]

昭和55年8月20日 通算第1号



### 立山正子秋田県看護協会 会長のあいさつ

支部だよりを発展的に解消し「看護あきた」発刊となった。3000人の会員一人ひとりが協会活動に参加し結合できた結果である。若者も年輩も睦み合い、励まし合い、看護の大きな輪の中で生き生きと限りない可能性を求めて働き、建設していこうではありませんか。

### 助産科紹介コーナー

秋田県立衛生看護学院助産科昭和55年4月1日設置された。全国では67番目の発足となった。学院の特徴や学生の入学状況が紹介された。秋田県の助産婦数は386人で60歳以上が5%を占め、助産婦の絶対的不足と高齢化問題を重要視した対策であった。

# 「看護あきた」の歴史をひもとく

昭和55年に第1号を発刊し、今回で100号を迎えた「看護あきた」は、会員の皆様に支えられ、創られ、そして歴史をしっかりと刻んで、諸先輩の方々からの長いリレーをつなぎ、今日まで走り続けています。

今回は、その時々を振り返ってご紹介いたしましょう。

看護あきた [昭和57年度 3号]

昭和57年3月25日 通算第6号



### 昭和56年度秋田県看護学会(12月16日開催)

冬空のもと約400名参加。12例の看護研究発表が行われた。特別講演の講師はアルフォンス・デーケン氏で、テーマは「第3の人生と死の意義」

人間には生活年齢・生理年齢・心理年齢の3通りがある。生活年齢で年をとっても心理年齢で心の若さを保ち、晩年の新しい可能性を発見し発展させることによって、より豊かな「第3の人生」を過ごすことができる。

看護あきた [昭和58年度 1号]

昭和58年8月25日 通算第10号



### 第29回フローレンス・ナイチンゲール記章を受章 名誉会員 志田ち糸氏

ジュネーブの赤十字国際委員会で、フローレンス・ナイチンゲール記章の受章者、21カ国36人(日本人3人を含む)が発表され、6月22日東京プリンスホテルで記章授与式が行われた。表紙について「偉大なる献身によって抜群の功績ある赤十字看護婦「志田ち糸氏」に授ける。記章裏面「博愛の功徳を顕揚しこれを永遠に世界に伝える」

1933年日本赤十字社秋田支部救護看護婦養成所を卒業して以来、57年7カ月もの長い間看護の道を歩み続ける。7年4カ月もの間、病院船や陸軍病院で戦時救護活動に従事し、その後も看護教育体制の充実を図るなど、看護水準の向上に尽力された。

### 昭和58年度秋田県看護協会総会

念願の三婦統合が実現

看護あきた 100号記念企画

# 「看護あきた」の歴史をひもとく

看護あきた [昭和59年度 1号]

昭和59年8月15日 通算第13号

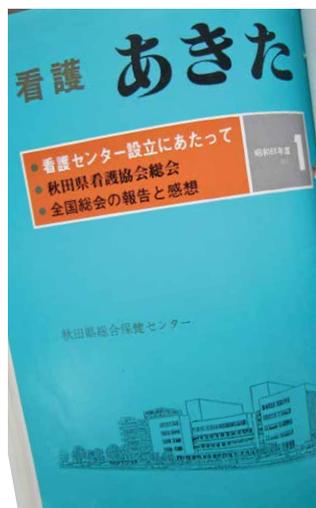


## 昭和59年度 秋田県看護協会総会

出席会員428名委任状2793枚をもって開催された。統合2年目の総会は、会員の白熱した討議や質疑応答で審議が滞る場面もみられ、定刻を延長して閉会した。

看護あきた [昭和61年度 1号]

昭和61年9月1日 通算第19号



## 秋田県看護センター設立 9月10日完成式典開催(第2号に掲載)

看護あきた [昭和63年度 2号]

昭和63年9月10日 通算第26号



## 創立40周年記念特集

秋田県看護協会会長 久保静江氏、歴代支部長15人などたくさんの方から、40周年に寄せて、思い出や励ましの寄稿が掲載。支部会員4,331名

## 秋田県看護協会のあゆみ

昭和6年から63年までの主要事項が年表で掲載された。

看護あきた [平成2年度 3号]

平成2年2月25日 通算第30号



## 「看護あきたは どう読まれているか」 アンケート結果報告

どんな記事を読んでいますか1位:シリーズ私の職場(20~40代)、地区活動報告(50代)、研修会報告・地区活動報告(60代)。2位は看護婦に期待するもの(20代)、研修会報告(30~50代)、私の看護婦像(60代)

看護あきた [平成3年度 2号]

平成3年10月20日 通算第35号



## はじめての「看護の日」記念行事

全国各地で一斉に式典や行事が開催された。式典、特別講演、午後は「看護学校進学希望の集い」開催、新企画に戴帽式のデモンストレーションが行われた。



表紙のことは

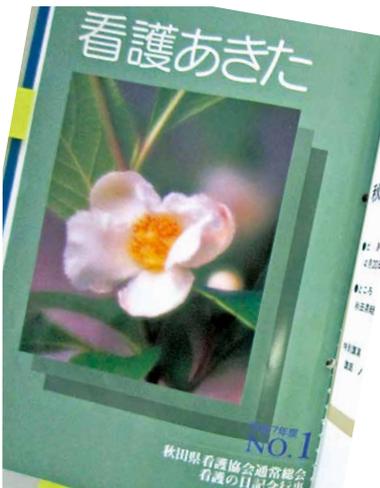
三浦与子 八幡平後生掛温泉「今年も9月25日ごろから山が色づき始め、10月の第1週目には赤いじゅうたんを敷きつめたようにすばらしい紅葉をみせてくれた。」

編集後記

医学生の臨床実習、アトリオン献血ルームの開館など目新しい内容を掲載

~ちょっと拝見“隣のお夜食”~  
夜勤で疲れたお肩とおなかにかが

県立脳血管研究センター 鎌田久美子・神宮美子「フルーツヨーグルトを紹介」



表紙 佐藤昌平氏撮影 表紙のことは

葉に艶があるので艶葉木、あるいは葉が厚いので厚葉木と呼ばれていたのがいつしかツバキになった。花言葉は控えめな美点

Report 阪神大震災救護班の活動

秋田県から92名の方々が保健医療救護班要員として派遣された。看護職を対象にアンケートを実施した結果を報告 救護活動の具体的内容、活動にあたって不便や困難を感じたこと、災害時の医療救護活動のあり方について結果を報告

原稿募集

「職場の看護活動を始め趣味のことやエッセイ等、様々な原稿をお寄せください。読者の皆様から「看護あきた」に対する反響をいただければ、よりよいものにしていけるとおもいます。一言二言の寄稿でもかまいません。お待ちしております。」



表紙「あきたフキ」

秋田県写真協会事務局長 高橋 省次氏

新設看護短期大学紹介

「秋田桂城短期大学」  
「日本赤十字秋田短期大学」



日本看護協会主催 機関誌コンクールにて「広報委員賞」を受賞

個別評  
看護あきた(秋田県)

東北4大夏まつりとして知られる「竿灯」の写真が表紙を飾る「看護あきた」。今回広報委員賞にとどまったが、最優秀賞に推薦する声もあつたほど中身の濃い機関紙である。在宅療養者から看護職へのメッセージや南部シルバーエリア(施設紹介)「助産婦職能委員会のとりくみ」「老人保健施設における看護の役割」などの硬派的な記事から「私のリフレッシュタイム」「ちょっと拝見“隣のお夜食”」といった息抜きまで盛りだくさん。企画・構成面では間違いなくトップクラスだ。また編集後記や原稿募集欄に「会員の皆さんとともに「看護あきた」をつくっていこうという姿勢が表れているのも好感が持てる。今後の課題はこうした会員と県看護協会を結ぶパイプ役としての、親しみやすさを紙面のデザインやレイアウトの中にとど表現していくかだろう。



秋田県看護協会  
創立50周年記念

記念式典・記念講演(カラーで初めて掲載)

創立50周年あの頃の思い出:保健婦部会支部長 佐藤ユキ氏、助産婦部会初代支部長 中山玲子氏、秋田県支部協議会会長 岡本カネミ氏、秋田県看護協会初代会長 立山正子氏、常務理事 佐藤昌平氏から当時の思い出が寄せられていた。

看護あきた [平成11年度 1号]

平成11年6月30日 通算第58号



「看護あきた」がA4サイズとなり、一段と見やすい記事に変化した。秋田県看護協会シンボルマーク誕生



看護あきた [平成12年度 4号]

平成13年4月15日 通算第63号



初めてのNo.4の発刊となった。新シリーズ「ホスピス」が始まる。会員委員会による「協会未加入者に対するアンケート調査」実施164名からの回答結果を報告

看護あきた [平成13年度 1号]

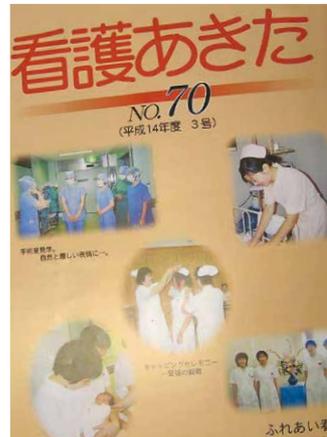
平成13年7月31日 通算第65号



13年度第1号から通巻番号になった。今年度の表紙は顔をテーマに、職場や研修等で出会った真剣なまなざしや素敵な笑顔を紹介していく。

看護あきた [平成14年度 3号]

平成14年12月17日 通算第70号



編集後記

今号より認定看護師のシリーズが始まった。県内で3名の方々に順次登場していただく。10月18日都道府県看護協会広報担当者会議へ出席。協会機関紙コンクールは年々応募紙が多くなる中、今回も入賞となり参考となるコメントを頂いた。

看護あきた [平成14年度 4号]

平成15年3月31日 通算第71号



「おらほの病院自慢」新シリーズで登場する。

看護あきた [平成15年度 1号]

平成15年7月28日 通算第72号



看護あきたが、より読みやすいように、縦書きから横書きに一新した第1号である。

看護あきた [平成16年度 3号]

平成16年11月8日 通算第78号



第35回日本看護学会—小児看護—が秋田県で開催された。学会の特別講演やアトラクション、広報取材班による「撮り歩きインタビュー&スナップ集」など、にぎやかに紙面を飾る。

看護あきた [平成17年度 4号]

平成18年3月20日 通算第83号



表紙のことば

枝垂れ桜は、角館の佐竹北家に京都からお嫁入りした姫君が、持参したのが始まりといわれています。樹齢300年を超える古木を含め、数多くの枝垂れ桜が、街並みを染めるよう咲き誇ります。

看護あきた [平成19年度 3号]

平成19年12月5日 通算第90号



第62回国民体育大会「秋田わか杉国体」が開催された。救護班として活躍している看護職を「覗き見隊」が取材した結果を掲載。

看護あきた 100号記念企画

「看護あきた」の歴史をひもとく

看護あきた [平成20年度 2号]

平成20年10月22日 通算第93号



秋田県で開催された、第39回日本看護学会—母性看護—学術集会の報告。創立60周年記念事業「自殺予防標語」入賞作品の発表。

看護あきた [平成21年度 1号]

平成21年7月10日 通算第96号



わたしのまちの看護師さん「こまち」—認定看護師紹介シリーズ—が表紙を飾る。まったく新しいイメージで刷新した「看護あきた」は、多方面で評判が良く、手応えを十分に感じております！

# 広報出版委員長 経験談



平成5年～平成8年まで  
広報出版委員長として  
活躍された

戸井田ひとみ氏

(秋田市医師会立)  
秋田看護学校)

平成8年度「看護あきた」第2号(H8.10.31発刊 通算第50号)が、  
日本看護協会主催の機関誌コンクールにて、  
「広報委員賞」を受賞しました。

当協会、初の受賞ですので、当時、委員長を務めていた戸井田氏に  
広報出版活動を振り返って思い出などを語ってもらいました。

## 広報出版活動を振り返って

このたび、「看護あきた」が100号を迎えるということで原稿依頼がありました。広報出版委員長時代に苦労したことや楽しかったこと、今後の看護あきたに期待すること等をということでしたが、何しろ十年以上も前のこと、活動を振り返ろうにも記憶が曖昧で当惑してしまいました。そこで、看護協会に赴き当時の「看護あきた」を見せてもらうことにしました。ページを繰り始めた途端、当時のことが走馬灯のように頭の中を駆け巡るとともに、メンバー紹介の写真にそれぞれ若かりし頃の姿を見出しては時の流れを実感もしました。

広報出版委員会の仕事は年3回の「看護あきた」発行ですが、活動内容がストレートに外に現れるだけに怖いものがありました。しかし、それぞれ才能豊かなメンバーに支えられ、4年間で12号の機関紙を滞りなく会員の皆様にお届けできたことで責務を果たせたと思っています。

いうまでもなく、「看護あきた」は秋田県看護協会の機関紙であり、協会活動を会員の皆様に伝えるためのものです。したがって、協会の事業報告や研修会報告など、どちらかといえば硬派な記事が多く、堅苦しいイメージがあると評価されていました。そうした印象を改善することが最大の課題でした。まずは表紙で人目を引き、中も見てみようという気にさせなければということで季節の花々や、秋田フキ・竿灯・なまはげ等の秋田の風物詩を題材にした写真にするなど工夫を凝らしました。また、箸休め的な記事で堅苦しいイメージを払拭しようと「私のリフレッシュタイム」や「ちょっと拝見、“隣のお夜食”」等を企画しました。

平成8年、アンケート結果をまとめた「『看護あきた』はどう読まれているか」によると、前回の調査結果に比べ堅苦しいイメージが半減していました。また、「看護あきた」を読むようになったきっかけとして「表紙」がトップに上げられており、課題を達成することができました。さらには、同年の日本看護協会主催機関誌コンクールで広報委員賞受賞というおまけまでつき、広報出版活動の醍醐味を味わうこともできました。

こうした過去の体験を踏まえ、今後の「看護あきた」に期待することは、今回の100号発行を一つの節目として新たな歴史を築き上げていってほしいということであり、広報出版委員の方々にはより魅力的で親しみやすい紙面づくりを追求し続けていただきたいと思います。

そして、個人的には会員の交流の場として、また会員と協会を結ぶパイプ役としての「看護あきた」の新たな歩みを見守り、微力ながら応援していきたいと思っています。

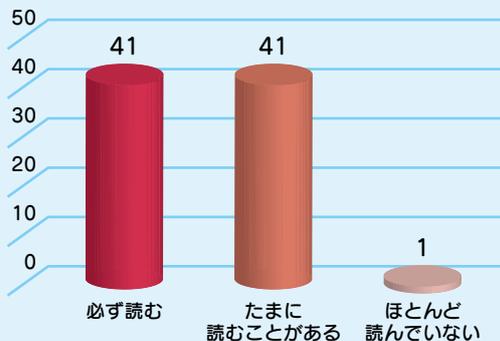
# 看護あきた

## 100号記念発刊にむけてのアンケート

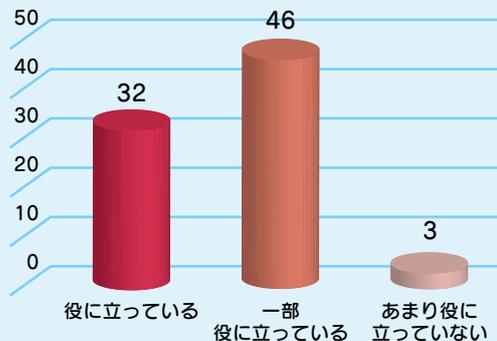
「看護あきた」は平成22年7月に100号目の発刊となりました。

それにあたり、5月26日に開催した通常総会参加者にアンケートを実施して、その中から一部を抜粋してご紹介いたします。

### Q1 看護あきたを読んでいますか



### Q2 看護あきたの内容は役にたっていますか



### Q3 「看護あきた」で今後とりあげてほしい内容やご意見がありましたらお書きください

- 職場訪問などがんばって働いている仲間を紹介して欲しい。  
がんばっている人のお話が聞けたら自分も元気がもらえそうな気がする。
- 医療福祉関係の政策
- 地区支部で取り組んでいることなど興味あり読んでいました。  
情報交換のためにも今後順番に取り上げてもらいたと思います。
- 広報出版委員の皆様におまかせいたします。(不勉強です)
- 各病院や施設で取り組んでよい結果を出している  
「私の職場の強み」をのせてはいかがでしょうか。  
他の職場でも参考になることがあるかもしれないと思いますが。
- 看護の歴史(先輩個人会員が現役時代の看護内容や環境など)、現在秋田魁新聞に  
佐々木満氏が掲載されていますが、そのようなイメージでもいかがでしょうか
- 多くの会員の声が届くような欄があればうれしい。(仕事プラス+趣味+日頃人生目標等)

### Q4 看護あきた100号記念発刊をとおして、会員の皆さんに伝えたいことなど、自由にお書きください。(日々感じていることや、「看護あきた」へのメッセージなど、どのような内容でもいいです。)

- 看護学校時代の同級生が載ったりしていると「みんなががんばっているな」と、励みになります。  
毎日じっくり読んでいます。
- 新会員になりましたので今後は読ませていただきたいです。
- 看護協会や会員についていろいろ言っている人が多いが、私自身協会の理事になり関わったことで、中身が見えるようになりました。協会の役割、会費の重要性を是非皆さんにわかってもらうためにも、たくさんの人に関わってほしいと思いました。大変でしたが、勉強になりました。
- 「看護あきた」100号記念発刊おめでとうございます。今後さらに情報誌として、いろいろな内容の充実した事柄を掲載していただきたいです。
- 担当する委員の方々には大変ご難儀をおかけします。
- 表彰はいくつになっても(満81歳3ヶ月)またいくらいただいてもいいもんですね。  
平成12年3月読売新聞社中央表彰を受けた。皇居散策、H17年4月叙勲皇居天皇皇后ご拝謁受ける。H21年5月看護連盟50周年に当たり秋田県より一般者として参加し、東京コンベンションホールで表彰を受けてまいりました。  
今回はまた協会長表彰いただきまして嬉しく思っております。総会でのスタッフの皆さんのテキパキした行動すべてが順調でりっぱでした。とても良い刺激になりました。看護職っていいですよ。やって元気をもらいました。有難うございました。(川田 ハナ 81歳)
- 委員、協会職員、会員の結果が実を結んでいるように思います。  
これまでのご苦勞に敬意と感謝を申し上げますと共に今後の更なる内容の充実を祈念いたします。
- わたしのまちの看護師さんはいつも見えています。表紙に取り入れているのが良いと思います。
- 協会設立発足当初からの歴史年譜(表)があればいい。
- 100号おめでとうございます。癒しを与えてくれるような記事をお願いします。

看護協会への

# なんでもメッセージ

看護協会へのご意見・ご要望、看護あきたで取り上げてほしい話題・お知らせ等々、  
なんでも結構です。ご自由に記入して、FAXで送信してください。

Large empty area with horizontal dashed lines for writing a message.

お名前

病院・医院名

TEL

FAX

部署・部門名

社団法人 秋田県看護協会

FAX.018-835-9522

# INFORMATION

## 事務局からのお知らせ

### 脱少子化を巻き起こす行動県民会議について

秋田の少子化対策のために県では、平成21年度に佐竹知事を会長とする「脱少子化を巻き起こす行動県民会議」を立ち上げ、県民が一体となって少子化対策に取り組む気運を醸成するための啓発・広報活動を推進しております。その一環として、「あきたの少子化対策

協定『子どもの国づくり推進協定』締結について依頼があり、秋田県看護協会では、平成22年3月26日に協定の締結を行いました。締結した看護協会の取り組み内容は次のとおりです。

- 1 少子化対策の気運づくりに向けて**
  - ・会員等への啓発・広報活動
  - ・少子化対策応援ファンドへの募金協力
- 2 出産や子育てがしやすい環境づくりのために**
  - ・病児保育所の推進
- 3 仕事と家庭・育児が両立できるように**
  - ・看護職のワーク・ライフ・バランス（育児中の勤務時間の短縮等）
- 4 みんなが協力して少子化対策に取り組むために**
  - ・会員所属施設や協会各地区支部への脱少子化対策の呼びかけと広報
  - ・他団体主催のイベント（子育て応援団等）への積極的参加

以上について、今後、看護協会とともに具体的な取り組みを進めていきたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

「脱少子化を巻き起こす行動県民会議」の略称が「**ベビーウェーブ・アクション**」と決まりました。今後は「県民会議」がこの略称で様々なアピールをしていくこととなります。

### 認定看護師養成事業補助金について

専門性の高い看護技術と知識を持った認定看護師の配置を推進するため、認定看護師教育機関に看護師を派遣した病院等に対し補助を行う制度が、平成22年度の秋田県の事業として7月1日からスタートしました。事業内容は次のとおりです。

対象者◆認定看護師教育機関の入学者または在籍者を雇用する病院等  
対象経費◆入学金、授業料、実習経費及び材料費、代替職員雇用経費  
上限額◆一人当たり50万円  
養成者数◆6人  
対象認定看護師分野◆がん認定看護師育成支援事業の対象6分野を除く  
感染管理、新生児集中ケア、訪問看護等の13分野

補助金の交付を希望する場合は、平成22年7月14日(水)までに次の担当にご連絡ください。

【担当】秋田県健康福祉部医務薬事課 看護・地域医療班(佐藤)  
TEL018-860-1406 FAX018-860-3883 E-mail satou-tomo@pref.akita.lg.jp

### 会議・研修会等のお知らせ [在宅会員交流会について]

今年度も、在宅会員を対象にした交流会を、次の内容で予定しておりますので、奮ってご参加ください。

問い合わせ:  
秋田県看護協会庶務係  
TEL018-834-0172

日時◆平成22年8月27日(金) 13:30~16:40  
場所◆秋田県看護センター5階第一研修室  
内容◆情報提供「最近の看護協会の活動について」  
秋田県看護協会会長 烏トキエ  
講演◆「動物の親子の絆から学ぶ」(仮題)  
講師◆秋田市大森山動物園園長 小松 守 氏  
申込〆切日◆平成22年8月6日(金)

### 第1回 秋田県ストーマリハビリテーション研究会 ご報告

去る、平成22年6月5日(土)晴天の中、第1回秋田県ストーマリハビリテーション研究会を開催することができました。参加人数約80名と県内各施設から多数の方々にご出席いただきまして無事終了することができ誠に有難うございました。会長とともども大変に感謝しているしだいです。厚くお礼申し上げます。今回、秋田赤十字病院外科部長小棚木 均医師に特別講演「ストーマケアとクリー

ブランド・クリニックと洗腸用虫垂瘻」をご講演いただき、また各施設から5題の研究発表をしていただきまして大変感謝しております。今後も秋田県におけるストーマリハビリテーションのレベルを向上させ、ストーマケアの知識、技術の普及を全力で行っていきたく存じます。今後とも当研究会を宜しくお願い申し上げます。

(事務局:秋田大学医学部附属病院 看護部 小玉光子)



#### 広報出版委員会の紹介

今年度、4名の委員が交代となりました。

前列 左より 西村真智子、佐々木順子(委員長)、中川久美子(新)  
後列 左より 五十嵐紅子(新)、中屋 郁(新)、軽部奈弥子(新)

# INFORMATION

## 研修会のお知らせ

### 平成22年度認定看護師連絡会議・研修会について

今年度認定看護師資格を取得された方も対象になります。秋田県内で活躍されている認定看護師の皆様には、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

申込方法は「平成22年度教育計画冊子」中のP23「様式1」に記載して、FAX又はメールにてお申し込み下さい。

申込み切日：8月2日(月)

目的◆県内の看護の質向上に貢献している認定看護師の今後の活動を支援するため、県内の認定看護師が一堂に会し、状況把握や情報交換・相互連携の推進を図る。

対象◆県内の認定看護師 日時◆平成22年9月28日(火)9:30~16:00

場所◆秋田県看護センター 5階第一研修室 参加費◆1,000円

内容◆情報提供：「最近の看護の動向及び看護協会の活動について」 秋田県看護協会会長 烏トキエ

講演：「質の高い看護への期待と役割」

講師：宮城大学看護学部講師 がん専門看護師

菅原 よしえ氏

事例発表：緩和ケア認定看護師

高橋 加代子氏

皮膚・排泄ケア認定看護師

武田 美幸氏

救急看護認定看護師

小笠原 美奈氏

グループワーク・発表

### 衛星通信対応研修

申込みは教育計画冊子「様式2」

テーマ	開催日	定員	会場	受講料
現場の力を活かす -魅力的な職場になるために-	8月 6日 7日	70名	看護センター 5階第1研修室	会 員 7,000円 非会員 10,000円
終末期医療のこれからと課題 -救急医療から緩和ケアまで-	9月10日 11日	100名	秋田県総合保健センター 2階大会議室	会 員 7,000円 非会員 10,000円
働き続けられる職場づくり	11月 6日	70名	看護センター 5階第1研修室	会 員 6,000円 非会員 9,000円
医療現場を悩ます クレーム・暴力のマネジメント	12月10日 11日	70名	看護センター 5階第1研修室	会 員 7,000円 非会員 10,000円

### 訪問看護管理者研修 (秋田県委託事業)

開催日◆10月9日(土)、10月16日(土)、10月30日(土)

受講対象者◆1)訪問看護ステーションの管理者および管理者の業務を補佐する者  
2)原則として3日間受講可能な方。但し、一日単位での科目受講も可。

定員◆40名

受講料◆無料(但し、資料代として全日程受講者6,000円、科目受講者2,000円/日)  
別途通知あり

参加申込期間：8月2日(月)~8月16日(月)

### 第37回秋田県看護学会

メインテーマ 「看護職の可能性」

申込みは教育計画冊子「様式6」

開催日◆11月12日(金)

会場◆秋田県総合保健センター 2階大会議室、第1研修室

参加費◆会員3,000円、非会員5,000円、看護学生1,000円

参加申込期間：8月2日(月)~8月20日(金)

上記事業の問い合わせは、事業部までどうぞ。

事業部直通 ☎018-831-8020 FAX.018-831-8023 E-mail; a.kango.kyouiku3@jupiter.ocn.ne.jp

今回掲載された文章や写真、個人名・団体名については個人情報保護法の下、他の目的には一切使用いたしません。

### 編集後記

平成22年度第1号が記念すべき100号として、皆様にお届けできることをうれしく思います。100号までの看護あきたをひもときながら、表紙の移り変わりや、変化に富んだ多彩な内容、また、協会活動の発展などを垣間見ることができました。

また、100号記念に向けてのアンケート調査へのご協力ありがとうございました。今後取り上げてほしいテーマなどについて、寄せられたご意見を参考にし、より一層、秋田県看護協会の情報誌としての役割が果たせるよう努めていきます。(宇佐美 正子)

## 看護あきた Vol.100 平成22年度 1号

Nursing Akita



発行日/平成22年7月14日

発行責任者/(社)秋田県看護協会 会長

発行所/(社)秋田県看護協会 秋田市千秋久保田町6-6 Tel 018-834-0172

印刷所/秋田中央印刷(株) 秋田市新屋豊町6-43 Tel 018-823-7577